

やいた未来ミーティング（子育て世代）会議録

日 時：平成30年9月7日（金）

13:07～14:33

場 所：かしわ幼稚園

出席者：市長

かしわ幼稚園父母会役員30名

1 開 会 13:07 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 意見交換テーマ

「子育てしやすいまちづくり」

Q1

父母会

今年は猛暑で近所の小学生が学校や学童で熱中症になったと聞いた。ぜひエアコンをつけてほしい。

市長

矢板市を除く塩谷地区内の小学校のエアコン設置率は100%。対して市内小学校のエアコンは泉小学校のみ。統合が予定されている西小学校を除く10校については、来年の夏までにエアコンが取り付けられるよう、設計費3,100万円を9月補正予算で提出した。

父母会

工事の関係は来年の夏に間に合うのか。

市長

今年、愛知県豊田市で熱中症による死亡事故があった。国でもエアコン設置に対して補助金を充実させるといっているが、4月に予算がついても夏までに間に合わないので、今回、設計費分の費用を提出した。来年の夏には間に合わせたい。市内小中学校の老朽化に対する優先順位として、今までトイレの洋式化を進めていた。和式よりも洋式のが衛生的というのもあり、エアコンよりトイレを優先したが、死亡事例もあったので、優先順位を変えなければと考えている。

Q2

父母会

ココマチの「子どものひろば」も含めてだが公共施設は薄暗く感じる。大田原市にあるトコトコのが明るくて雰囲気も良い。

市長

矢板市の施設は全体的に老朽化が進んでいる。「子どものひろば」はトコトコのように計画的に作られたものではないので、やむを得ないと思っている。

話は逸れるが、今後、公共施設の統合などの検討を進めている。矢板駅東口に設置を進めている、とちぎフットボールセンターの残地部分に体育館や子どもの遊び場、お母さん方が集まれるようなスペースが作ればとの思いはある。

父母会

新しいものを作るときに民間企業の提案などを募ってはどうか。

市長

フットボールセンターに限っては、署名活動を行ったときにサッカーだけではなく、市民の健康づくり、生きがいづくり、防災拠点として利用できるスペースとすることが大前提となっているので、こういった場で色々な意見を聞きたいと思っている。

西小学校の利活用では、公募型プロポーザルなどでアイデアを募りたいと思っている。場合によっては運営までお願いするなども考えている。

公共施設再配置計画では今後30年で4割削減する計画を立てている。矢板市内は小中学校の数が多く30年後には矢板小学校、東小学校、片岡小学校、安沢小学校、矢板中学校の5つしか残らない方向性がでている。「えっ」と思うかもしれないが、そうしないと矢板の財政はもたない。

Q 3

父母会

統廃合された場合の通学手段はどうなるのか。

市長

通学するためのスクールバスは責任をもって用意する。来春統合する西小学校の児童については、矢小から2km以内でもスクールバスを用意する予定でいる。今後どうなるかは、現段階ではわからない。

Q 4

父母会

息子が泉小に通っているが、少ない人数で9年間を過ごすことに不安をもっている。今後、児童数が減少していくのであれば統廃合を進めてもらいたい。

市長

統廃合については、皆さんの父母より上の世代の方の思いからすると、学校は地域のシンボリックな存在なので難しいところもある。

しかし、専門外の教科を先生が指導していたり、人数が少ないため団体競技ができないなどの問題もあるので、考えていかなければならない。

今の教育長になってから学力向上に非常に力を入れている。今年の全国学力テストでは、初めて県平均と全国平均を上回ることができた。学力を向上するために小規模校が良いのか、ある程度の模校が良いのかは分からないが、今回、矢小と東小に電子黒板をつけたように、予算の面から見るとどこかに集中する必要があると思う。

Q 5

父母会

6年くらい前に赤ちゃんの健診の際に嫌な思いをした。全部の保健師とは言わないが、初めてママとなって成長を楽しみにしたり、相談に行っているのに、保健師の言葉づかいが悪く気分を悪くした。

市長

対応の面については、現在の子ども課長に伝えておく。何かあった場合、直接言いにくいとは思いますが、メールなどでも結構なので連絡してほしい。

父母会

職員の表情が暗く感じるので笑顔での対応をお願いしたい。また、誰かが窓口に出るだろう感があるので積極的な対応をしてほしい。

また、昼休みに節電をしているのは分かるが、お客さんが窓口にいるのに電気を消されたので、もう少し細かな面も意識してほしい。

市長

国、県、市といろいろな職種があるが、市町村役場は窓口対応が非常に多い職場なので、より一層改善していきたいと思う。

Q 6

父母会

障がいのある子を持っているが、現在幼稚園ではとても良い対応をしてもらって安心しているが、小学校に上がった時に先生によって対応が違っていると聞いたことがあるので不安がある。保護者同士のネットワークができると良い。

市長

発達障がいと言っても色々な特徴がある。細かな支援の必要性はわかっているが足りない部分はあると感じる。宇都宮市のような大きいまちであれば、発達障がいなどの種類によって様々な団体があるのは知っているし、その団体で保護者同士が情報交換をしているのも知っている。

矢板市の規模では団体などのネットワーク構築は難しいが、先生だけではなく、障がいを理解してもらえる地域づくりが必要ではないかと思う。ネットワークとしてとらえるのであれば、矢板市単体だけではなく、塩谷地区で進めて行っても良いのではないかと思う。

父母会

さくら市の保護者の方が保健師の方と協力して会を作ったと聞いた。お互いに協力して会を作っていきたいので、よろしくをお願いしたい。

市長

障がいのある子は早期発見、早期療育という面もあるので、小学校だけではなく、幼稚園、保育園にも理解を深めてもらって適切な対応をしていきたいと思う。

Q 7

父母会

矢板で子育てをされていて不安なのは土日の病院。電話しても小児は見られないと言われてしまう。

市長

地域医療はどちらかと言うと県の問題。塩谷地区以外では平日夜間の初期救急医療を行っている病院がある。8月に栃木県の保健福祉部長に要望活動へ行った際、塩谷病院に医師を増やしてほしいとお願いしてきた。県には県職員扱いの医師もいるので1人でも2人でも回してほしいとお願いした。市だけの問題ではないので、塩谷地区内で取り組んでいきたい。

父母会

息子が夜間、頭を怪我したり、熱を出してことがある。塩谷病院に電話をすると小児科がないと断られた経験があり、電話をする気もなくなってしまった。また、医療費が小学校に上がると申請方式なので地味にめんどくさい。年齢を引き下げても良いので現物支給にしてもらいたい。

市長

最近では専門外を診察しない傾向が強くなっている。塩谷病院も以前に比べれば医師は増えているが、医療界全体が訴訟の問題なので避ける傾向にあることは認識している。

子ども医療費の扱いをどうするかは、大きな判断をしなければと思っている。同じ無料化でもさくら市は18歳まで現物給付となっているが、コンビニ受診と言われる方が増加して医療費が増加している。医療費が増えたことで財政が苦しくなっていると感じている。現物給付に切り替えると、国の補助もなくなってしまうため、全て市で負わなければならない。

先ほど「選択と集中」ということを言ったが、エアコンの設置、子ども医療費の現物給付の拡大、給食費の無料化にはそれぞれ財源が必要となる。限られた財源の中でどれを優先していけば、子育てしやすいまちになるのかを逆に皆さんに聞きたい。

父母会

統計を取るなどして、年齢を引き下げれば現物給付ができるのではないかと。

市長

子ども医療費の現物給費の必要性は分かっているが、年齢を引き下げして現物給付を行った場合、7,000万円増加すると試算している。その金額分増加するならば、校舎の新築やエアコンの設置、トイレの洋式化、学力向上のための先生の配置、電子黒板の設置などのほか、学校給食費を一割でも下げていった方が良いのかなど、一番効果的なものを皆さんから聞きたい。

父母会

どれを優先してほしいかを決めることはできないが、今市長から話を聞いて、理由があることが知れて良かったと思うが、この場にいない方は知ることができないので、色々な場で色々な人と話をしてもらいたいと思う。

市長

平成28、29年度に市内65行政区全てで、未来づくり懇談会を開催して市民のみ

なさんの意見を伺った。千人以上の方とお話をしたが、皆さんのような子育て世代や、女性の方の声を聴くことができなかった。今回、子育て世代の皆さんとお話ができているが、他にも多くの方の声を聴くべきと思っている。

Q 8

父母会

子どもが甘えるのはやはり母親。その母親を癒す場やケアする場を作れば、笑顔も増えて、子どもも父親も笑顔になれるのではないか。

市長

社会経済情勢の多様化、複雑さなどで昔よりも子育てはしにくくなっているのかなと感じる。今回のように立派な箱物が無くてもできることはあるので工夫をしてつなげていきたいと思う。

6 閉 会 14:33